

事後評価シート

調査研究課題名	政策効果の分析システムに関する研究Ⅱ
担当者	研究調整官 水谷 誠 研究官 太田 隆史
①当初目標と目標達成度	空間経済学の理論を活用した空間的応用一般均衡モデルを用いて、港湾投資政策の経済効果を計測するモデルを構築するとともに、過去の港湾投資の経済効果を計測した。当初の目標通り、信頼できるモデルを構築することができ、経済効果を計測することができた。
②調査研究内容の妥当性	空間的応用一般均衡モデルを用いて、港湾投資の経済効果を全国レベルで計測した研究成果はこれまでになく、新規性に富んだ研究内容である。また、本研究では、空間経済学研究の第一歩として簡易な空間的応用一般均衡モデルを構築したことから、今後の同分野の研究の発展につながる成果を得た。
③調査研究の仕組みの妥当性	研究の推進にあたっては、公共投資の評価、一般均衡分析、産業連関分析等に係る第一線の研究者からなるワーキンググループを開催し、十分に議論しながら研究を進めた。また、実際の計算にあたっては、類似の研究成果を持つコンサルタントに委託した。いずれも最先端の知見を持つ者が役割分担しながら研究を進めることができた。
④成果と活用（予定）	研究の途中段階の成果を、平成16年春の土木計画学研究発表会にて論文発表した。また、平成17年9月に開催予定のアジア交通学会にて発表する予定である。
⑤その他	PRI Review2004年秋季号に中間報告を掲載済み。
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 波及効果についてわかりやすく説明して欲しい。（報告書修正済み） ・ 将来シナリオの設定をわかりやすく説明して欲しい（報告書修正済み）